

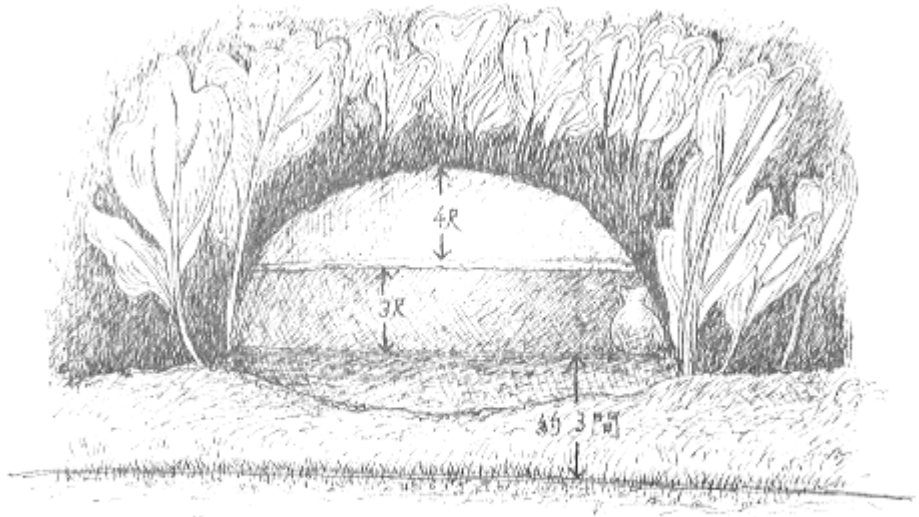
山ん寺から出土した須恵器 (上野田町)

今から約三十年前の昭和三十六年八月頃のことです。豊小学校の運動場をもつと広くしようと、夏休みを利用してPTA全員がスコップ持参で集まりました。そして山へ土を取りに三班に分かれトラックに乗り込みました。

着いた所は上野田地積十八字二十五番山の寺と
いうところで、この附近一帯は古墳のある所として知られていました。

皆、手に手にスコップやノコギリを持ち、山の木を切り倒し、根を掘り起こしながら作業を進めていきました。真夏の太陽がジリジリ照りつけ、たちまち汗びっしょりです。でもかわいい子供達のため、みんな黙々と作業をし、掘った土をトラックに積み込んで行きました。

ところが、道路より、五・六メートル入った所



道路

——▶ 北

で大木を切り倒したところ、大きな穴がぼつかりあいたのです。

穴は四坪（畳八枚分）ほどもあり、奥は二段になっていました。大木の根がまるで穴を守るかのように回りを覆っていました。そして、穴の入り口付近で叩き目や掻き目や押さえ目の入った大きな壺が見つかり、他にもさびてぼろぼろになった刀剣のよなものも見つかりました。

当時の専門家に調べてもらったところ、縄文時代のものではないかと分かり、思いがけない古代からのプレゼントにみんな驚きました。

後にこの壺は須恵器で、縄文時代より後世の、今から約千五百年前、紀元六世紀初めの頃（継体天皇の頃）のものと分かりました。この土地で昔どんな人々がどんな生活をしていたのか想像してみても楽しいですね。